防犯活動通信（No.32）

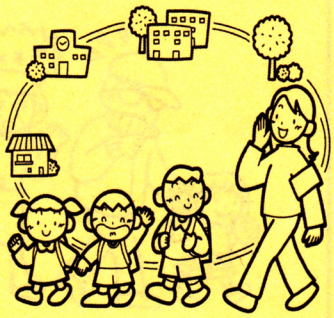
兵庫県企画県民部県民文化局
地域安全課
平成23年3月

子どもの登下校の見守り活動について

本年度実施した、まちづくり防犯グループへのアンケートで、７割以上のグループが、子どもの登下校の見守り活動を行っている結果が出ています。

入学シーズンを迎え、新入生などが事件事故に巻き込まれないよう、見守り活動を強化されるこの時期に、改めて見守り活動の取組方法について考えてみましょう。

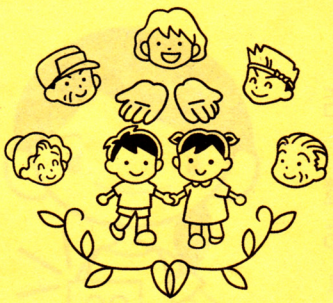
○ 子どもたちの安全を確保



子どもの見守り活動の目的は、言うまでもなく、子どもたちの登下校の安全の確保です。

しかし、ただ見守るだけではなく、通行方法などの注意すべき点を現場で指導すれば、子どもたちの日常の危機回避能力の習得にも繋がります。

○ 地域全体の安心感の醸成



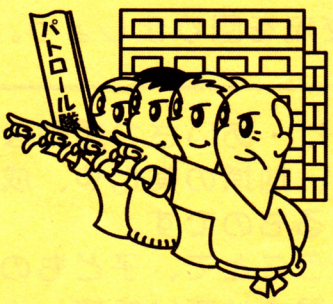
毎朝子どもたちを元気に送り出し、帰りを温かく迎えてあげることで、子どもたちに地域全体に見守られているという安心感が生まれるとともに、見守る側の大人にも『地域全体でやるべきこと』であるという意識が生まれます。

○ 子どもを通じた三世代の交流

「子どもの安全」に地域全体で取り組むことで、今まで交流のなかった世代間の交流も生まれます。

世代間の交流が生まれることで、地域の連帯感も広がり、防犯活動以外の地域活動も活性化するなど、地域全体に良い影響を与えます。

○ 健康につながる規則正しい生活



見守り活動の効果として、意外と多かったのが、「規則正しい生活を送るようになった」「以前に比べて健康になった」というものです。

今後、活動を広げるにあたっては、健康面からのアプローチも有効ではないでしょうか。

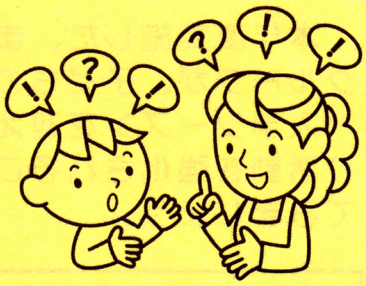
より効果的に活動を行うために

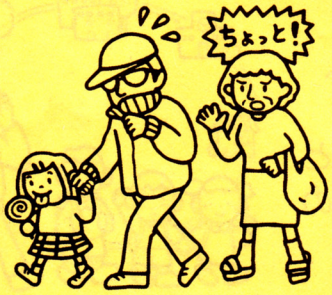
防犯グループのアンケートの回答などをもとに、子どもの見守り活動を、より効果的に行うための方策を、いくつか取り上げてみました。

○ 通学路周辺の点検、危険箇所の確認

新学期が始まり、本格的な登下校が始まる前に、見守り隊や親子で一緒に通学路を歩いて、危険箇所を点検してみるのはいかがでしょうか。

それぞれの目線、立場で気付いた点を話せば、より点検の効果が得られますし、春休みの間に変化している箇所を発見することもあるはずです。





○ 地域住民への協力依頼

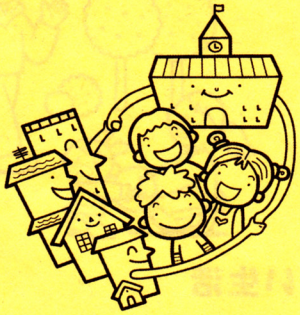
通学路全てに人を配置するのは、不可能です。

そこで、地域住民の方に、登下校に合わせて通学路が見える位置で家事をしてもらう、買い物などの日常の外出を登下校に合わせてもらうなどの協力を求め、地域全体で実行してもらうことで、地域の見守り効果が格段にアップします。

○ 活動員の名前を覚えてもらう

子どもたちと、より良い関係を築くために、活動時に、名札を付けるのも良い方法です。

名前やニックネームを覚えてもらうことで、登下校時のみならず、日常生活においても、子どもたちから話しかけやすくなり、より活発なコミュニケーションが取れるようになります。



○ 学校・子どもたちとの交流

見守りの効果をより高めるには、学校や保護者、子どもたちとの交流を深めることが有効です。

学校側の協力を得て、学校行事に参加して教諭や保護者と情報交換する、児童との給食会を開く、また地域において、昔の遊びの体験などの行事を企画するなど、積極的な交流を図りましょう。

子どもの見守り活動は、通学路の清掃活動や声かけ・あいさつ運動などと組み合わせることで、子どもの安全確保のみならず、地域の美化や、成人も含めた地域全体のマナーアップなどの効果も得られるものです。

今後も地域の実情に応じた活動と組み合わせて行うことで、子どもの登下校の見守り活動を、地域全体の安心安全の確保に発展させていきましょう。